

平成29年度 施策評価表

課・グループ名	都市整備課都市施設グループ
---------	---------------

作成年月日：平成30年 9月27日

施策名	5-(3)-② 水環境の保全		
1. 施策の現状分析及び展開方向			
政策・施策の体系	大項目	中項目	小項目
	5. 安心して楽しく暮らせる快適な生活環境のまちづくり	(3) 安全、安心な生活を支える防災・防犯対策の推進	②水環境の保全
①施策のねらいと展開方向	<ul style="list-style-type: none"> ● 水質保全を目指すため合併処理浄化槽のPR等を行い、設置の普及促進を図ります。 ● 公共下水道施設の安全確実な機能を発揮するため、施設の適切な維持管理を図ります。また、農業集落排水施設については最適整備構想を策定し、計画的な改修を行い施設の延命を図ります。 ● 第2浄水場の改築については、効率的な管理運営と安全・安心な水道水の供給のため、長幌上水道企業団が主体となり実施します。 		
②施策の現状と課題	現 状	課 題	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 合併処理浄化槽設置にあたって、補助対象者に助成を行っています。 ● 公共下水道施設（昭和50年から整備開始）及び農業集落排水施設（平成2年から整備開始）については、長期にわたり使用していることから、劣化、腐食等がみられます。 ● 公共用水域の水質保全及び生活環境の改善を図るために下水道施設を整備し、本町の汚水を江別浄化センターにおいて一括処理しています。 ● 第2浄水場は昭和56年建設のため、施設の老朽化、水質基準の強化などの対応が必要となっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 家屋の新築に伴う合併浄化槽の設置が大半を占めていることから、今後は既設単独浄化槽から合併浄化槽への転換を推進する必要があります。 ● 公共下水道施設を今後も安定した能力を発揮させるため、適切な維持管理が必要です。特に、農業集落排水施設については既存施設の有効活用や長寿命化を図ることが必要です。 ● 将来の水需要計画で求めた水量を確保するため、改築に係る水処理方法の検討及び認可の変更手続きが必要です。 	

2. まちづくりの成果指標の設定、達成状況									
① 成果指標	設定の意図			まちづくりの成果指標名		数値化			
	水環境の保全のため、合併処理浄化槽の設置の普及を図り、町内の水洗化率上昇につながる補助設置基数を成果指標としている。			成果指標（総合計画・施策評価）		可能	不可能		
						未計測			
				代替指標 ※成果指標がない場合		指標の設定			
				合併処理浄化槽補助設置基数		○	可能	不可能	
② 指標データ	単位	過年度実績			評価年度	目標年度	達成率増減の理由		
		H26	H27	H28	H29	H33			
目標	基	10	10	10	10	7			
実績	基	4	3	7	4				
達成率	%	40	30	70	40.00%				
評価視点		評価結果				理由、課題・問題点			
③ 施策の達成状況		A 計画目標に向けて順調に推移（目標達成は十分に可能である）				施策の達成度	当初補助全体設置計画の200基に達成している事から、設置希望者の減少により年度目標には達成していない。		
		B 計画目標に向けて概ね順調に推移（目標達成は可能である）							
		C 計画目標に向けての進捗はやや遅れている（目標達成が遅れる可能性がある）				B			
		D 計画目標に向けての進捗は遅れている（目標達成は難しい）							

3. 施策を構成する事務事業の評価

【種類】事務事業の種類

【必要性】事務事業の必要性

【妥当性】町の関与の妥当性

(1) 自主事業(自主)

(1) 町が保障する町民生活の最低水準に関わるもの

(1) 町が実施主体となり、企業等が補完的な役割を行う事業

(2) 施設管理事業(施管)

(2) (1)を超えるサービスで町民ニーズが大きいと考えられるもの

(2) 実施主体は企業や町民団体等が適当であり、市が補完的な役割を担う事業

(3) 経常的事務(経常)

(3) (1)を超えるサービスで町民ニーズが小さいと考えられるもの

(3) 企業や町民団体等による実施が妥当な事業

(4) ハード事業(ハード)

①事務事業評価結果

事業番号	事務事業名	種類	所管課名	成果指標	評価年度(H29)		事務事業の内容	必要性	妥当性	事務事業評価結果(方向性)	事業費(千円)		施策への貢献度 <高い> <普通> <低い>
					目標	単位					H29実績	H30予算	
					実績								
1	合併処理浄化槽設置助成事業	(2)	都市整備課	浄化槽の基数	10	基	町広報を通じて年2回周知する。合併処理浄化槽を設置することにより、生活排水による公共用水域の水質汚濁を防止し、生活環境の保全及び公衆衛生の向上が図れる。	I	I	2-2 見直して継続 縮小	1,586	普通	
					4	基					3,145		
2	農業集落排水最適整備構想策定事業	(1)	都市整備課	構想策定件数		事業	将来に亘って、処理施設の機能を維持保全するため、ストックマネジメント(既存施設の有効利用や長寿命化)の手法を取り入れ、機能診断を行い最適整備構想を策定し、計画的な改築更新を行う。	II	I				
						事業							
3	長幌第2浄水場改築負担金事業(起債償還ベース)	(4)	都市整備課	改築工事等 ①認可変更 ②実施設計 ③建設工事	①1	件	改築に係る工事費等の南幌負担をする。 ・H29年度 認可変更 ・H30年度 実施設計 ・H31年度～H33年度 建設工事	II	I	1 現状のまま継続	13,706	普通	
					①1	件							

年度別施策全体の事業費合計(千円)

H29事業費	15,292
H30予算	3,145

②H30に実施した新規事務事業

	実施計画	実施主体	事務事業名	事務事業の内容	H30予算(千円)
1					
2					

評価視点	評価結果		理由・問題点
③事務事業の妥当性 (手段は妥当か)	A 効果的な事業構成である。 (現状のまま継続する)	事業構成の 妥当性	設置希望者が減少傾向にあることから補助基数を10基から7基に削減した。
	B 概ね効果的な構成である。 (一部見直し等の余地がある)		
	C あまり効果的な事業構成はない。 (見直し等の余地が大きい)	B	
	D 事業構成に問題がある。 (抜本的な見直し等が必要である)		

4. 今後の方向性 ※外部評価(行政評価委員会)

①総合評価 (今後の展開、 事業の見直し等) 委員会評価	【評価】	事業の 方向性	事業番号					平成30年度以降 の予算の方向性	
	特に課題とすべき指摘事項はない。		A						
			B	3					拡大
			C	1					維持
			D						縮小